

日本のスポーツの聖地として数々の名勝負を見守ってきた国立競技場。その歴史を継承し、新時代のスポーツと文化を発信するスタジアムとして、国立競技場は生まれ変わります。

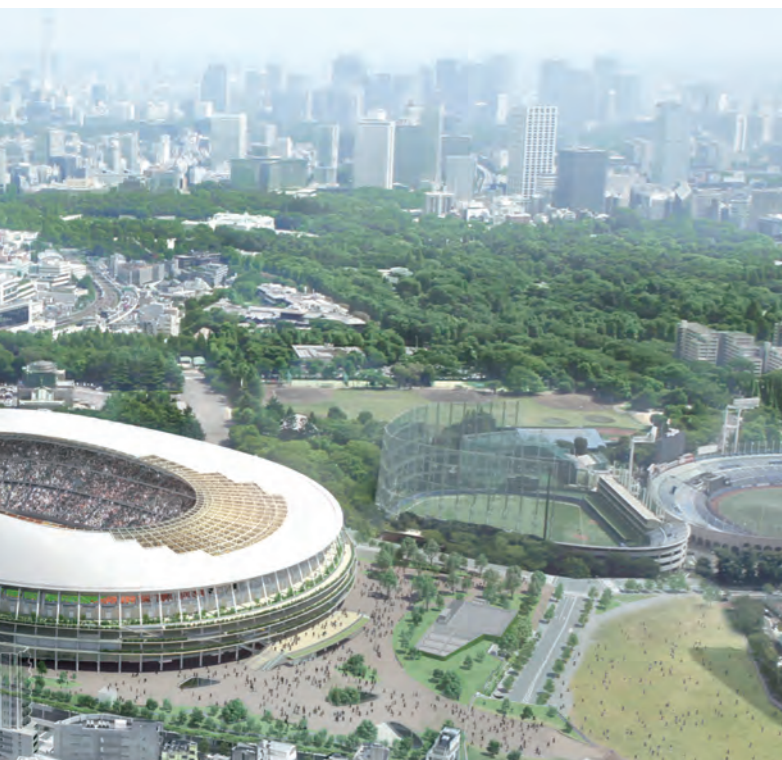


大正13(1924)年10月
日本初の本格的陸上競技場として、国立競技場の前身である明治神宮外苑競技場が青山練兵場跡地に完成。

昭和33(1958)年3月
明治神宮外苑競技場解体後に、第3回アジア競技大会のメイン会場として国立競技場が完成。

昭和39(1964)年10月
第18回オリンピック競技大会・東京大会のメイン会場として、開・閉会式、陸上競技、サッカー及び馬術が行なわれた。

平成31(2019)年11月
新国立競技場(仮称)完成予定。



鳥瞰イメージ

最上階には一周約850mの「空の杜」と名付けた散歩道を設け、四季を感じながら都市景観を楽しむ市民のための展望スペースとしました。また、木の温もりを感じながらアスリートと観客の一体感を創出することや、全ての人が安心して観戦できるユニバーサルな環境を整えることで、市民とアスリートに長く親しまれ、明治神宮外苑の杜と共に生命の大樹として未来へと持続する競技場となることを目指しました。

大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体

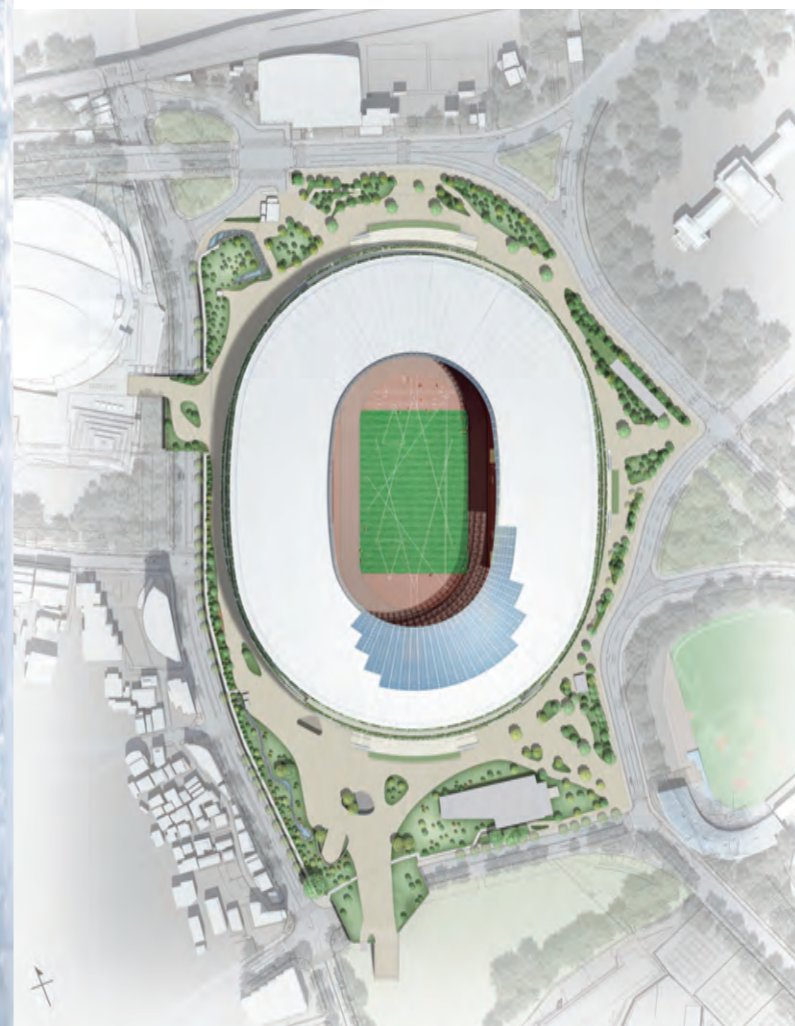
新国立競技場

整備事業



新国立競技場整備事業

敷地面積 約113,000m²
 建築面積 約72,400m²
 延べ面積 約194,000m²
 高さ 約47.4m
 階数 地上5階地下2階
 座席数 完成時約60,000席(将来、約8万席への増設が可能な計画)
 完成予定 平成31(2019)年11月
 計画敷地 東京都新宿区霞ヶ丘町10番1号ほか
 発注者 独立行政法人日本スポーツ振興センター
 受注者 大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体



掲載しているパース等は完成予想イメージであり、実際のものとは異なる場合があります。
Copyright ©大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体

国立競技場の歴史を継承



左:東京オリンピックのメイン会場として改修された国立競技場 右上:明治神宮外苑競技場※
右下:完成当時の国立競技場 ※明治神宮外苑絵葉書(東京都立中央図書館所蔵)



モリ 杜のスタジアム

21世紀の東京に建つ競技場は、環境にやさしく、市民に開かれる必要があると考えました。明治神宮外苑の緑豊かな環境に溶け込むよう、高さを出来るだけ低く抑え、外周には日射を遮り、心地よい風を観客席に送り込む^{ひび}庇を設けました。庇は日本の伝統建築を構成する重要な要素であり、環境にやさしい建築をつくるための知恵の結晶です。庇には在来種の緑を設え、緑豊かな周辺環境と競技場とが緩やかにつながるようにしました。



南側外観イメージ

柱に溶け込む。

柔らかな陰影と温かい質感をつくる木と緑の庇で構成されたスタジアムは、明治神宮外苑の緑豊かな環境に溶け込み、訪れる人々を温かく迎え入れます。



空の柱イメージ

市民に開く。

周長約850mの屋上空間「空の柱」や四季の変化が楽しめる「大地の柱」を配したスタジアムは、市民がスポーツに親しむことができる、スポーツクラスターの新たな拠点となります。



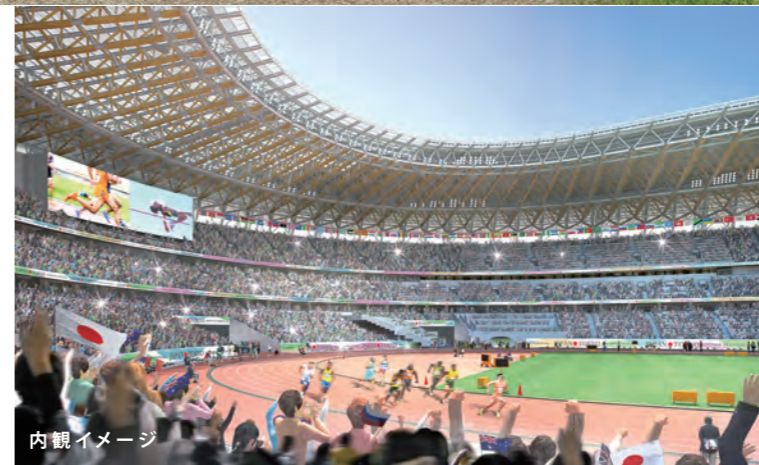
内観イメージ

木を使う。

国産木材と鉄骨を組み合わせた部材を大屋根に用い、全ての観客席から木の温もりが感じられる、世界に誇る日本らしいスタジアムを創出します。

柱のスタジアム

明治神宮外苑の
緑とスポーツをつなぐ
市民に開かれた
スタジアム



内観イメージ



車椅子席イメージ

臨場感をつくる。

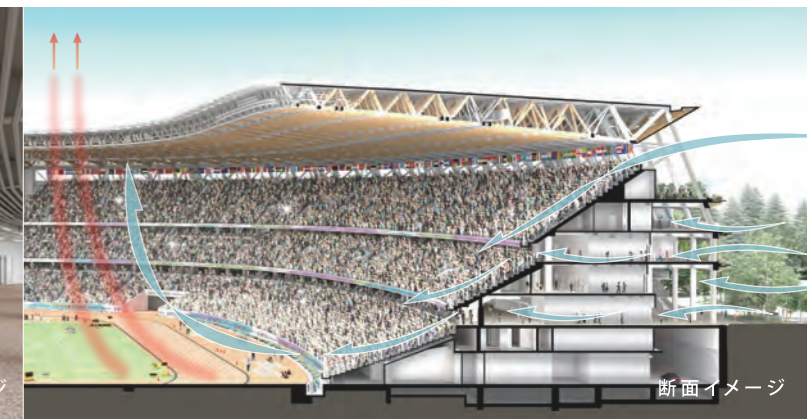
すり鉢状の3層スタンドでアスリートと観客との一体感を創出するとともに、全ての人が安心して観戦できるユニバーサルな環境を整えます。

夏の卓越風を庇とテラスから効率的に採り入れ、スタジアム内の温熱環境を向上させる、自然エネルギーを活用した環境にやさしいスタジアムを整備します。

自然を活用する。



コンコースイメージ



断面イメージ